

4. 3 水質事故の対応状況

機構施設が関係する水質事故の多くは、関係河川や貯水池内、水路施設内への油類^{※1}や化学物質の流入によるものである。

2023年は機構が管理する54施設中10施設で、表4.2に示すとおり、水質事故の対応を行った。機構では、関係機関等で構成される水質汚濁対策連絡協議会、利水者等と迅速な連絡調整を図って情報を共有するとともに、必要に応じてオイルフェンス、オイルマット設置等の拡散防止対策を実施し、水質被害の拡大を防止した。

※1 油類：重油、軽油、ガソリン等

表 4.2 水質事故の対応状況（2023年）

水系	発生日	施設名	発生場所	原因物質
利根川・荒川	1月18日	東総用水	小堀川	油類
	1月27日	東総用水	黒部川	油類
	2月21日	北総東部用水	十間川	油類
	7月11日	思川開発	南摩川（室瀬橋地点上流域）	油類
	7月24日	思川開発	南摩川（室瀬用水取水堰呑口付近）	油類
	12月17日	群馬用水	利根川本川（取水口上流）	油類
豊川・木曾川	8月30日	徳山ダム	ダム貯水池内	油類
	10月30日	豊川用水	牟呂松原頭首工上流	油類
淀川	6月12日	日吉ダム	京都府南丹市	油類
筑後川	6月15日	筑後大堰	福岡県朝倉市	油類
		筑後川下流用水		
		福岡導水		
	7月11日	筑後大堰	福岡県久留米市 (7/10の豪雨による被災地)	油類
		筑後川下流用水		
		福岡導水		